

学校
法人 内丸学園
盛岡幼稚園

園報

第 251 号
(12月)
2019

根っこを育てる幼児教育

学校法人内丸学園 理事長 坂本 洋

令和元年の初雪舞う年末を迎え、木枯らしが一段と身にしみる季節です。本年はこのほか園庭の木々の紅葉が鮮やかでした。モミジの赤、ドウダンツツジの鮮紅色、こならの黄色（例年は茶色）、夏の間は緑の葉っぱが「なぜ赤くなるの？」。子どもたちは色鮮やかな落ち葉を拾いながら不思議です。紅葉を眺めながら「秋ですねー」と落ち着いた口調のつぶやき年長さんには、はっとしました。6歳ながら大人の感受性、感性の育ちを感じた場面でした。

毎朝、登園する子ども達は目を輝かせ元気いっぱい駆け込んできます。その姿は、どんな遊びをしようか、無邪気に素直に毎日楽しんでる続きを今日も！という意欲的な姿です。自然環境の中で五感を使ってヒト、モノ、コトにかかわり、発達に必要な経験・体験を深める遊びが、心の育ちや知識理解の育ちになっています。

幼稚園では、環境を通した子どもの主体的な遊びから培われる育ちを、「学び」としています。

また幼・小・中学校教育の目標は、「生きる力」の育ちといわれ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、より良く問題を解決する資質や能力の成長です。そして自らを律し、他の人と協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性をはぐくむ基礎を身に付けることがねらいです。

最近、幼児教育で「10の姿」と紹介される子ども達の具体的活動が、小学校教育に接続する「根っこ」です。

良い根っこに育つには、太い根であること。活発な吸収力と発散力。長くてたくさん枝分かれして大きくなること。の三つが大事だとされます。まず太い根は、子ども達の心が安定し、毎日楽しくお友達と遊べる幸せを感じる心の育ちです。次に、活発に旺盛に自分から主体的に遊び、発散し、経験・体験を繰り返すエネルギー力。三つ目は、子どもの気持ちだが、未知の世界に関心を示し自分を広げよう、伸びようとする育ちの力です。

私たちは、子ども達の「この根っこ」を育てるために日夜努力しております。当幼稚園における毎日の保育活動は、まさに「根っこ」の育ちにほかなりません。

11月には園児全員が園庭に集まり、落ち葉の焚き火で焼いて食べる焼き芋会がありました。今年も年長さんが、春にタツピングの畑に出かけ苗を植え付けたサツマイモの収穫をおいしく賞味しました。この行事が終わると、恒例のクリスマス会で年長児による聖誕

劇（オペレッタ形式）の準備に入ります。これから、一人ひとりの役柄のせりふや、歌をおぼえ、一つの物語として演じるのですが、終わった時の子ども達自身の満足感、達成感は格別です。

落葉の季節に改めて幼児期に育てなければいけない大事な心の根っこを考えました。絵本「葉っぱのフレディ」は、紅葉の時に子どもへの読み聞かせにふさわしいですが、じっくり自分自身の人生の過ごし方を考える絵本でもあります。何故か私は、毎年この時期にこの絵本を手に入れます。是非お読みください。

「葉っぱのフレディ」



子どもの遊び・生活

「作品展」を終えて

Cクラス担任 瀧山 茉保

「あと〇回寝たら、ふたばまつりだね」と楽しみにしていた子ども達。ふたばまつり当日は大好きなお家の人と一緒にゲームをしたり作品展を見たりしながら笑顔がいっぱいでした。

今回の作品展では、遊びの中で子ども達が特に楽しんでた、ねこごっこから『ハルコネコ』と、粘土や画用紙を何かに見立てて遊ぶことを楽しんでた、〇△□の構成遊びから『まる、さんかく、しかく、ぞう』の絵本を題材にしました。製作をする中で、ハサミを使ったりお花紙を丸めてネコの体を作ったりと、手先をいっぱい使う活動が多くありました。ハサミは持ち方を確認しながら切りまします。曲線にも挑戦し、ドキドキしながらも、真剣な表情で切っていました。ネコの体を作る時にはネコのフワフワな毛を再現しようとお花紙の丸め方にもその子なりの



こだわりが見られました。初めてのことに挑戦して、最後まで投げ出さずに頑張る子ども達。「できた！」の声に満足感の表情をしており、成長を感じています。どの作品も個性が光っていて、その子なりのアイデアがいっぱいの子ども達らしい作品になりました。これからも、様々な面で挑戦する子ども達を支え、成長する姿を楽しみにしながら見守っていきたいと思います。

「美味しいドーナツのできあがり」



「うんこやませー!!!」

Bクラス担任 千葉 麻由佳

十一月十三日に行われたトトロランド。BクラスはAクラスの隣（ホールステージ）でお店屋さんを開きました。

昨年とは違い、お店屋さんができることにとても張り切って準備を始めた子ども達。どんなお店屋さんをやりたいのかと話し合い、一緒にできそうなお店は協力し合って進めることに決まりました。子ども達には作りたい商品のイメージが具体的に浮かんでいたので、友達同士で意見を出し合ったり材料を工夫したりして商品を作っていました。

前日からお店ごとに自分達で机をステージに運び、商品を並べて楽しみに迎えた当日の朝。看板を貼り、商品の並びを調整して準備をしていきます。お店の準備が整うとさっそく、「いらっしゃいませー!!」と大きな声で張り切っていました。開店まではまだ少し時間があったので、その元気はお客様が来るまで取っておいてもらいました。そして、いよいよ開店！お客さんとのやり取りを楽し

む姿や、一生懸命呼び込みをする姿もあり、最後には用意した品物はほぼ完売していました。後半は、お客さんとしてAクラスさんのお店で買物を楽しませてもらい、満足気な様子のBクラスでした。来年は更に成長したみんなが、どんなお店を開くのか楽しみで

子どもたちの育ち

つほみクラス担任 中村 真子

十二月になり、寒さが身に染みる季節となりました。寒さに負けることなく、元気に遊ぶ子どもたちの姿にたくましさを感じているこの頃です。

さて、保育部では冬の自然も感じてほしいという思いをもって、内丸緑地や作人館公園などに戸外散歩にかけています。これまでも散歩に行っている場所ではありますが、日々子どもたちの中では発見がある場所となっています。

十一月末に行った時は霜柱を見つけ、保育教諭と一緒に足で踏むと音が鳴る、触ると冷たいなど子どもたちには新鮮で、新しい発見となっていました。「つめたい!」「雪みたい!」そんな声が聞こえていました。そうした子ども

見・つぶやきを私たちは見逃さないようにし、一緒に豊かな経験を重ねていきたいと思いました。

また、生活の中では「自分で」という姿もだんだんと見られるようになってきました。手洗いの仕方、靴下・靴の履き方など手助けを受けながらも、自分でやってみようとする気持ちが育ってきているように思います。「できた」の嬉しい気持ちを共に感じられるよう日々過ごしているところです。

最近の子どもたちは、保育教諭との関わりを軸に、周囲の友達に興味を持ちながら遊ぶようになってきました。友達とのつながりも大切にしながら今後も楽しい園生活を過ごせるように、と思っています。



「友達と一緒にクッキング♪」

保育参観を終えて ～保護者の方から～

保育参観で胸を打たれたこと

Aクラス 阿部佳敬(志紀)

「いらつしやいませー！いかがですかー!!」

何とも可愛らしく並ぶ子たち。大きく響き渡る声：私の足は、自然とそちらの方へ向いて行きました。

先日の陶器づくりでも、真剣にお皿と向き合う子ども達に、私は胸を打たれましたが、今回の「お部屋さん参観」では、子ども達の確かな成長を目の当たりにし、先生方への感謝の気持ちで一杯でした。

今回のお部屋さんを少しだけお話しさせて頂きますと、「お化け屋敷」で、ガイコツに変装し屋根の上で、脅かす息子を気にかけてながら、「昆虫屋さん」「お部屋さん」「武器屋さん」と暫く居させて貰いました。昆虫屋さんでは「これは危険なスズメバチです」とか、お部屋さんでは「ピンクのはルビーです」「ダイヤモンドの宝石もあります」とか、武器屋さんで

は「これは金で作った一番の剣です」等、どの店員さんも瞳を輝かせていました。だんだんと「知らないおじさん客」との距離が近くなり、私からも店員さんに沢山のことを聞くことができました。どの商品もキラリと光るものがあり、気持ちがこもっていました。

時間を掛けて、心を込めて準備してくれたOnlineの「お部屋さん」に心が暖まりました。子ども達のまつぐで、ひたむきな目差しは、ダイヤモンドにも増して輝いていた気がします。貴重な時間を有り難うございました。

子ども達には、園での思い出を



「大盛況！トトロランドおばけ屋敷」

大切に、ぜひ、未来を切り開いて欲しいと思います。お父さんお母さんは、皆さんを全力で応援しております!!

子どもの成長を感じた保育参観

Cクラス 谷口史恵(湧都)

先日行われた今年2回目の保育参観。お部屋に入ると真つ先にCDプレイヤーの前へ行き、得意の歌とダンスを披露してくれました。春の保育参観ではびつたりと私から離れなかった息子でしたが、今回はホールで遊んだりお部屋でままごとをしたりとお友達と一緒に遊ぶ姿が見られ、ほっこりしたと同時に友達ともこうやって関われるようになったんだなど成長を感じて嬉しくなりました。

振り返ってみると、4月・5月は度々泣きながら通っていた息子も今では「今日幼稚園やってくる?」と毎日聞いてきて、やってくるよ!と答えると「やったー!!」と大喜びです。園に着くと「じゃあねー!」と一人でお部屋へ向かう後ろ姿は小さいながらもたくましく感じ、嬉しいような寂しいような複雑な気持ちになります。

保育参観の時、みんなで行なっ

たフルーツバスケット。手を繋いで一緒に移動している時、この小さくてぶにぶにしてお手々がとても愛おしくて、ふといつまで繋いでくれるかなと胸がキュンとなりました。ホールでの締めダンスも、Cクラスさん全員でみんな上手に踊っていて、子ども達の元気な姿に癒されました。終始子ども笑顔が見られたこと、とても嬉しく感じています。

最後になりますが、いつも子ども達を温かく見守りご指導下さっているすべての先生方に感謝いたします。

幼稚園の

取り組みから



園内研修での学び合い

認定こども園になり、お預かりする子ども達は0歳児から5歳児と幅広くなりました。そして保育者をはじめとした職員の人数も増え、『ONEチーム』で保育にあたる大切さを日々感じています。

他園の公開保育や、外部研修会に参加して学ぶことも多くありますが、私たちの園では月に一度園

内研修の機会を設け、職員間で学びを深めています。昨年までの園内研修会では、写真を盛り込んだ学年ごとの指導計画を作成いたしました。保護者の方にも保育のねらいや、年齢に沿った育ちの姿を知ってほしいという思いからでした。今年初めて懇談会等で配布いたしました。今後より分かりやすい形で発信していければと考えております。

また、今年度は各クラスの遊びの姿から、『遊びの質・保育の質を高める援助』について研修を進めています。一歳児が少しずつ友達に関心を持つようになる姿、年長児が試行錯誤しながら遊びを継続する姿など、その年齢なりの育ちを読み取り、意見交換しています。語り出すとつい時間を忘れて盛り上がることも…。「こんな育ちが感じられるー」「この援助が良かった。」等、お互いの保育を認め合うことが、職員間の信頼関係にもつながっているのだと感じました。

これからも、子ども達が安心感や充実感を持って過ごせるよう、園内での学び合いを大切にしていきたいと思えます。

ふたばまつりを終えて

ふたばまつり実行委員長
Aクラス 泉 沙織(亮太郎)

盛岡幼稚園は元々働くお母さん達が多い園ではありますが、今年の実行委員会の役員は全員「働くお母さん」でした。なかなかスケジュールが合わず、全員で集まることのできたのは結局最初の一回だけ。それでも皆で連絡を取り合いながら準備を進めました。子どもたちがお買い物やゲーム、工作を通して楽しみ、少しでも新しいことを経験できるように役員さんたちが考えてくれました。

しかし気になるのはお天気！予報では当日は雨マーク。前日の準備中にととうとう降り出し大雨に。当日の朝までドキドキでした。

しかし結果は…晴れ！たくさんの子どもたちが園庭を駆け回り、ベンチでは家族や友達と食べたせな光景でした。ホールや工作教室も大好評で、たくさんの子どもたちがキラキラした笑顔で楽しんでいました。

事前の準備はありますが、役員の方皆さんや先生方、当日のお手伝いをしてくださった皆さんのおかげ

で楽しく無事に終えることができました。ありがとうございます。今年の経験はまた来年のふたばまつりに繋がるものと思います。子どもも親も楽しめるふたばまつりが今後も続いていくよう願っています。

編集後記

豊かな実りの秋には、感謝の気持ちでいっぱいになり、そして今、イエス様を迎える心の準備の時を迎えています。登園してくるとアドベントクランツやクリブの飾りつけを見て「もうすぐクリスマス」と楽しみにしている子ども達です。

幼稚園最後の年となる年長児は、今年私たちが番と、聖誕劇に取り組み、自分たちが登場人物となって演じた経験は忘れられない思い出になると思います。年長児の頑張っている姿を見守り、クリスマスの意味を知って静かにその日を待ちたいと思います。新しい時代でも子ども達がダビデの星のように光かがやく世界でありますように。

学校法人 内丸学園

幼保連携型認定こども園

盛岡幼稚園

〒020-0011

盛岡市中央通一六―四七

TEL 六二二―二三〇一

理事長 坂本 洋